

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と
玉川中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

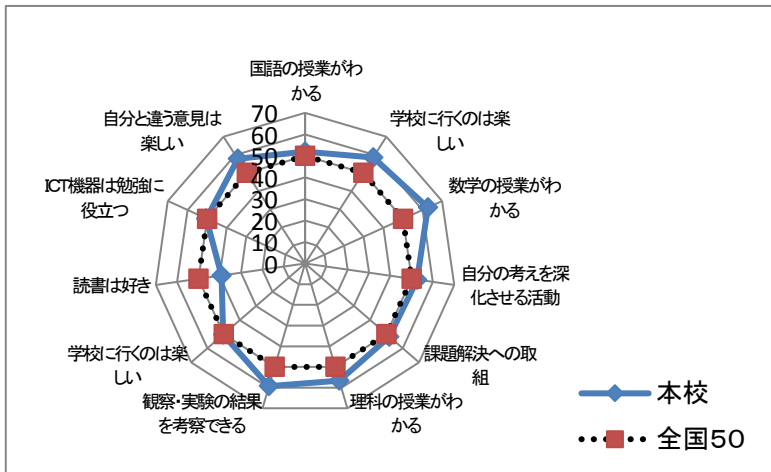
本校におきましては、学校教育目標を

- 1、自他共に尊重し、共に生きる力の育成
- 2、豊かな心・たくましく生きる力の育成
- 3、基礎学力の定着と自ら学ぶ力の育成

とし、日々の教育活動に取り組んでおります。このたび、4月19日（火）に3年生対象で実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配付されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることが調査の実施要領に示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標として、お考えいただきたいと存じます。今後も生徒一人一人に寄り添った教育活動の推進に努めてまいりたいと考えております。

1 調査結果概要 (*全国の結果を50とし、全国と本校の差を示したグラフです。)



○国語、数学、理科ともに、「授業がわかる」と答えた生徒の割合は全国平均を上回っています。

○「ICT機器は勉強に役立つ」と回答した生徒は全国平均と同程度です。

○主体的・対話的で深い学びの視点に関わる質問に対して肯定的な回答をする割合が全国平均を上回り、良い状態であると思われます。

●「読書は好き」と答えた生徒の割合は、全国平均を下回っています。

2 学校教育目標の実現に向けた調査結果を生かした今後の取組

※示している数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 () は全国の数値

(1) 「自他共に尊重し、共に生きる力」に関する調査結果

これまでの課題 引き続き、他者を尊重し、共に学び合い、高めあう力の育成を目指します。また、総合的な学習の時間において地域学習を取り入れ、地域に対する愛着を深めます。

成果

- ① いじめはどんな理由があってもいけない 96.5% (96.4%)
- ② 人が困っている時はすすんで助ける。 91.7% (88.4%)
- ③ 話し合いの時、友達の話や意見を最後まで聞ける。 99.2% (96.5%)

課題 地域をよくするために何ができるか考える。 30.8% (40.7%)

分析 他人を思いやり、尊重する気持ちが育っていることがうかがえます。これまでの結果と比較しても、これまでの数値を上回っています。本校が研究してきた「学び合い」の理念により友だちと協働しながら、対話を通して課題解決する力を育む教育活動の表れと判断できます。

しかし、課題に挙げた項目に関しては、コロナ禍における地域行事の減少の影響もありますが、依然として低い傾向にあるので引き続き課題であると考えます。地域に対する帰属意識を高め、地域を愛し地域をよくするために何をすべきか考える機会をもてるよう教育活動を進めていきます。

次年度への取組 (課題) 引き続き、他者を尊重し、共に学び合い、高めあう力の育成を目指します。また、道徳の授業等で地域への愛着を高める題材を用いて授業を行うなど、地域との関わりを意識した教育活動に力を入れていきます。

(2) 「豊かな心・たくましく生きる力」に関する調査結果

これまでの課題 共生*共育プログラムに引き続き取り組み、さらに自己肯定感の高まりを目指します。また、「キャリア在り方生き方教育」を継続して推進し、夢や希望をもって生き、たくましく生きていく生徒の育成を図ります。

成果

- ①自分にはよいところがある。
83.0% (76.2%)
- ②人の役に立つ人間になりたい。
93.8% (95.0%)
- ③難しいことでも失敗を恐れず挑戦する。
71.4% (65.9%)
- ④話し合う活動で、相手の自分と同じ考えや違う考えを受け止めて自分の考えを伝える。
89.9% (83.7%)

分析

①においては、全国平均より高い結果が出ていることから自己肯定感の高まりが見られますが、全ての生徒がさらに自分のよさを見つけられるよう、日々の学校生活全体を通して取り組んでいく必要があると考えます。②においては、かなり多くの生徒が人の役に立つ人間になりたいとの思いを持っていることがうかがえます。③④においては、本校が取り組んでいる「学び合い」の授業の成果であると考えられます。

しかし、「将来の夢や目標を持っている。」の結果は、全国平均を上回っているものの将来への目標を持ってない生徒も多いことがわかるので、これからもキャリア教育を継続して取り組んでいきます。

課題 将来の夢や目標を持っている。
62.3% (67.3%)

次年度への取組(課題) 引き続き、「学び合い」の授業を通して自己肯定感を高め、「キャリア在り方生き方教育」を継続して推進し、生きる力を育み、たくましく生きていく生徒の育成を図ります。

(3) 「基礎学力の定着と自ら学ぶ力」に関する調査結果

これまでの課題 引き続き家庭学習の重要性を伝え、学習計画の具体的な立案方法等を指導し、家庭学習の習慣化を図ります。

成果

- ①選択式問題の正答率
国語：73.8% (73.7%) 数学：57.0% (52.6%) 理科：51.0% (49.6%)
- ②記述式問題の正答率
国語：58.5% (57.4%) 数学：43.2% (36.2%) 理科：59.3% (53.5%)
- ③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげた。
79.7% (74.7%)
- ④授業では、教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。
74.2% (67.4%)
- ⑤課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む
86.1% (79.2%)

分析

基礎学力の定着については、前述の「調査結果概要」と成果①②から見て取れる通り、全国平均を上回っています。また、無回答率も低いことから、諦めることなく課題に向き合い、粘り強く最後まで取り組む姿勢がうかがえます。

③④⑤の結果から、既習事項を活用して粘り強く課題に取り組む姿勢や自分の考えを持ち主体的に学習に取り組んでいる姿が見られます。学び合い活動の成果もあらわれていると感じます。

しかし、この数年継続して課題としている「家庭学習の定着」について、家での計画的な学習は依然として低い傾向が継続しており、引き続き改善が必要であると考えられます。

課題 家で計画を立てて勉強をしている。
50.4% (58.5%)

次年度への取組(課題) 家庭学習の計画を立て、継続的に目標をもって取り組めるよう指導し、家庭学習の定着を目指します。

教育委員会より

玉川中学校では、「自他ともに尊重し、共に生きる力の育成、豊かな心・たくましく生きる力の育成、基礎学力の定着と自ら学ぶ力の育成」を学校目標に掲げ、日々の教育活動を行っています。継続している「学び合い」の授業は、基礎学力の定着のみに留まらず、人が困っている時はすすんで助ける等の他者への思いやりや尊重へとつながっています。

中原区・教育担当